

第5回丹後管内二級河川流域治水協議会の開催結果

■開催日時：令和4年11月10日（木） 15：30～16：30

■開催方法：Web会議<zoom>

■参加者：10名（別表参照）

結 果

■大雲川、神子川、大膳川、筒川、吉野川、宇川、新樋越川、木津川、栃谷川、久美谷川水系の流域治水プロジェクトを策定した。

■大手川、野田川、竹野川、福田川、佐濃谷川、川上谷川水系の流域治水プロジェクトのフォローアップを実施した。

主な発言内容

【開会挨拶（京都府建設交通部長）】

- ・近年の気候変動に伴い、水災害が激甚化・頻発化している。従来のハード対策では対応しきれないため、ソフト・ハードが一体となった流域治水の加速化が重要と考えている。
- ・国土交通省においても、流域治水の推進に寄与する事業について重点配布する方針。
- ・管内流域治水プロジェクトは策定完了するが、策定を目標とするのではなく、今後も引き続き、対策の拡充及び連携体制の充実が必要になるため、ご理解・ご協力をお願いしたい。

【意見交換】

〈宮津市〉

- ・川上から川下までの流域の関係者全員が参加し、プロジェクト全体を共有できることは大変ありがたいこと。
- ・こういった情報を関係者がしっかり共有することが重要であるため、宮津市の部局内においても、しっかりと共有する。また、他の関係機関の取組事例について参考にさせていただきたい。

〈京丹後市〉

- ・京丹後市では、今回で全ての水系でプロジェクトの策定が完了した。早期の対応に感謝する。
- ・近年の豪雨に対して、ハード対策のみでは対応が困難なため、ソフト面の防災対策が重要である。しかし、ハード整備の役割は非常に大きく、ハード整備のうえでソフト対策が成り立っているため、京都府に対しては、引き続き河川整備等ハード整備について尽力をお願いしたい。
- ・平成29、30年の連続した災害で、市内のいたる箇所で浸水被害が発生し、町が孤立する事態が発生したが、人的被害は起きなかった。ハード整備が完了していた地域に関しては、被害が最小限に食い止める事ができ、これはソフト・ハードが一体となった事前防災対策と共に、日頃からの住民主体の危機管理、防災意識の向上があったためだと考えている。
- ・ハザードマップ、マイ・タイムラインを活用し、更なる防災意識の向上及び防災対策に努め、安心・安全なまちづくりに取り組んでいくので、京都府及び各関係機関にはご指南等お願いしたい。

〈伊根町〉

- ・今回伊根町では、筒川においてプロジェクトを策定した。
- ・伊根町が実施している平成 29 年の豪雨に伴う災害復旧及び最新の解析に基づいたハザードマップ等の更新も完了し、京都府においても引き続き堤防の嵩上げも進めていただいております、地域住民の安心・安全な暮らしの実現に向かっていていると考えている。
- ・総合的な対策が進むことで、防災・減災の効果が高まると期待している。今後ともよろしく願いたい。

〈与謝野町〉

- ・協議会も今回で5回目となり、毎年着実に流域治水プロジェクトが策定されているということで、京都府及び各関係機関の尽力に改めて感謝する。
- ・改めて流域で実施されている対策を確認すると、山の保水力が非常に重要であり、改めて森林の保全や整備の重要性について、再認識した。その中で、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局の新規参画は非常に心強い。色々と助言をいただきたいと思う。
- ・山の保水機能の向上には、長い時間が必要になる。そのため、流域治水プロジェクトを念頭に、様々な方向から機能の向上に取り組んでいけたらと考えているため、引き続き協力等をお願いしたい。

〈京都府丹後広域振興局 地域連携・振興部〉

- ・地域連携・振興部では、豪雨の際の逃げ遅れゼロの実現に向け、各市町と連携し、防災リーダーの育成や避難行動のタイムライン作成の支援に取り組んでいる。タイムラインについては、府内の全ての危険地区での作成を進めているが、管内の市町において、未作成の箇所が残っており、振興局においても支援等を実施しているので、各市町においては積極的な取組をお願いしたい。

〈京都府丹後広域振興局 農林商工部〉

- ・農林商工部では、治山事業の他にも京都府の単独事業として流木の撤去や森林環境税を活用した危険木の撤去を管内で実施している。また、間伐などの森林整備事業を進めることで、森林が本来持つ防災機能をはじめとした多面的機能を向上させる取組も推進している。このような事業を実施しながら、流域の治水対策に努めて参りたいと考えている。引き続き関係機関のご協力をお願いしたい。

〈京都府丹後広域振興局 建設部〉

- ・流域治水やソフト対策は非常に重要で、計画以上の超過洪水は必ず起こりうるもの。流域対策やソフト対策を実施することで、河川の負担が軽減されることは非常にありがたい。一方で、ハード対策も重要といった意見もいただいたが、まだハード対策が完了していない部分もあり、河川整備計画が作成できていない河川もある。全体のバランスを図りながら、ハード対策についてはフォローアップを実施していきたいと考えている。

〈京都府港湾局〉

- ・近年、多発する豪雨等による土砂流出が多く、小規模河川においても河口まで土砂流出・堆積があった。河川の流下能力の維持のためには、浚渫が必要であるため、土木事務所と連携し、可能な範囲で進めていきたい。

〈国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局〉

- ・森林整備の重要性を肝に銘じて、丹後管内においても森林整備を進め、新たな事業にも取り組み、流域治水に貢献したいと考えている。そのため、ご協力をお願いしたい。

(京都府建設交通部長)

- ・財政審議会歳出改革部会で、流域治水に関し、「ソフト対策に積極的に取り組むプロジェクトに対し、ハード対策支援を行い、実施していない団体に対しては支援しないといったディスインセンティブが働く仕組みにすると、ソフト対策の実施に積極的に取り組むのではないかといった記述があった。
- ・ハード整備が完了したとしても、例えば10年に1度の洪水を安全に流下させる能力を有するようになるだけであり、今後10年に1度以上の規模の洪水は十分にあり得る。そのため、ソフト対策が充実しないと、財産はおろか生命も守ることはできない。ついては、ソフト対策を実施したうえで、ハードを実施しないといけない。
- ・ソフト対策に積極的に取り組んだ地域にハード整備支援をすることにより、全体がソフト・ハードのバランスの取れた防災計画ができていくといった良い方向に競争が進むことが地域全体としても良いと考えている。
- ・プロジェクトの策定完了に囚われず、各機関で対策に取り組んでいただきたい。

(別表)

機関名	職名	氏名	備考
宮津市	市長	城崎 雅文	(代理)総務部長：宮崎 茂樹
京丹後市	市長	中山 泰	(代理)副市長：中西 和義
伊根町	町長	吉本 秀樹	(代理)副町長：上山 富夫
与謝野町	町長	山添 藤真	(代理)副町長：井上 雅之
京都府 建設交通部	部長	濱田 禎	協議会会長
京都府 丹後広域振興局 地域連携・振興部	部長	水嶋 式行	
京都府 丹後広域振興局 農林商工部	部長	宮田 英樹	
京都府 丹後広域振興局 建設部	部長	春名 靖弘	
京都府 港湾局	局長	苔口 聖史	(代理)港湾企画課長：村田 利幸
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局	局長	佐々木 誠	